

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（第8回）議事要録

日 時 平成29年11月7日（火）19：00～21：00

場 所 武蔵野市役所812会議室

出席者 委員14名、事務局3名

小澤（紀）委員長、鈴木（雅）副委員長、大沢委員、大谷委員、
小澤（里）委員、上吉川委員、木村委員、塩澤委員、志賀委員、
鈴木（圭）委員、田中委員、村井委員、長島委員、郡委員

- 議事等
- 1 エコプラザ（仮称）のコンセプトについて
 - 2 「学校の花壇から地域の環境を考える！」について（委員報告）
 - 3 旧クリーンセンター事務所棟・プラットホーム再利用範囲について
 - 4 今後の会議の進め方について

1 エコプラザ（仮称）のコンセプトについて

発言者	要旨
事務局	<p>出席はされているが委員長が体調不良のため、進行は副委員長にお願いする。前回お示しした環境啓発施設の機能の資料については、さまざまなご意見をいただいたが、改めて機能について議論する際に、わかりやすくしたものを提示したいと思う。</p> <p>資料1の「エコプラザ（仮称）のコンセプト」について説明。</p> <p>新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設周辺整備協議会（以下「周辺整備協議会」という。）でごみの啓発を中心に考えてこられた3つの基本方針を多様な環境啓発を行う視点で捉え直し、本会議で議論してきた「メタボリズム」の考え方を加え、4つのテーマを案として示した。</p> <p>右側の前文に、市民自治やクリーンセンター建設の歴史など、武蔵野市としてのこだわり、武蔵野市らしさを掲げた。</p> <p>事務局では、クリーンセンターとの一体的な活用や全国の各施設等との連携により、可能性が広がっていくのではないかと考えている。また、今回のテーマの再確認は、今後議論が進んでいった時の立ち帰る場所として、委員の皆様と共有したい。</p>
委員	<p>メタボリズムの考え方が入ったのは、素晴らしいと思う。日々刻々と変わっていくという考え方だが、コンセプトを考える際に、どこまで最初に決めておくべきなのか、それとも議論をして決めていくのか。</p>
副委員長	<p>施設整備を考えたとき、わかりやすさを強調するあまり、施設の目的と機能がかかなり限定されてしまうこともあれば、逆に器に合わせて目的と機能を考え</p>

	<p>ると、中身が疎かになることがある。今回の場合は、中身に合わせて器を考えていくということで、その中身の最初の4つと思ったら良いと思う。事務局はどう考えているか？</p>
事務局	<p>フレキシブルに考えている。この先も議論が進んでいく中で、テーマが変わっていく可能性もあると考えている。</p>
副委員長	<p>4つの柱、低炭素と地域の力、まちづくり、メタボリズム、があれば考えられると思うが、一般市民が見た時にわかるように、もう少しかみ砕いた方が良いと思う。図書館や、美術館、動物園なら施設の中身がわかりやすいが、どんな施設なのかわかってもらう必要がある。もう少し伝えられると良い。</p>
委員	<p>以前の会議で印象的だったのは、「最終的にこの施設はなくなる」という言葉。ごみが削減されれば、クリーンセンターも消滅するというのは耳に残っているキーワード。一般市民にわかりやすく、具体的な行動にもつながりやすいコンセプトだと思う。</p>
委員	<p>ごみ減量を目指すことで、ゼロウェイストという考え方も出てきた。将来的には、ごみがなくなる社会をつくるのが理想だが、新しいクリーンセンターにも寿命があるので、広域化やゼロウェイストなど、時代にあった考え方をする必要はある。</p> <p>3つの考え方は、周辺整備協議会から引き継いだ大切なものだが、施設運営を考えると、これで完成形というのではなく、次々に起こる環境問題に対応しながら、行きつくところを決めなくて、みんなで探していくというイメージを持てれば良いという思いで、メタボリズムを使わせていただいた。</p>
副委員長	<p>この施設がなくなるという理想と、ごみを出さずに生活できるのかという現実論には非常にジレンマがある。出るものを全部リサイクルする、エネルギーに変えるなど、ごみゼロ社会が完成するという遠い理想的な目標に向かっていくためには、その時々での社会の状況を見ながら、実現可能な目標をつくっていくという体制が必要だと思う。</p>
委員	<p>現実的には、ごみはなくならないと思うが、コンセプトや目標としては、空想的なところがあるが、おもしろいキーワードだと思う。</p>
委員	<p>周辺整備協議会でなぜそのような意見が出てきたかという点、現在でも、この地にごみ焼却施設があり続けることに納得していない住民がいるからだ。今の段階では空想かもしれないが、方向性としては、そこを目指していくことを明確に打ち出さないといけない。その中間地点として今の新しいクリーンセンターがあるし、それに向けて、エコプラザも役割を果たしてくという位置づけで考えないと、納得しない。こうしたことを感じながら周辺整備協議会では議論をしてきたので、いずれこの地に焼却施設は必要なくなるという方向性は、市民会議でも引き継いでほしい。</p>

副委員長	<p>同じ市内にごみを出すだけの人と、それを受け入れて処理する近傍の人がいて、理想論があっても、ごみが自分の家のそばになれば良いという人と、直接影響を被る人とがいる。クリーンセンターを受け入れてきた長い歴史の中で現状が成り立っていることをリスペクトし、理解する必要がある。周辺整備協議会の3つの基本方針を受け入れていることで、リスペクトの考え方は入っていると思う。</p>
委員	<p>ごみだけに限らず、環境に悪影響を与える代わりに、暮らしやすさを手に入れている。それを解決するのが環境問題。排気ガスも水の問題も、自分がどちら側に立って考えるかサジェッションする施設だと思っていた。生ごみをどうするのか、プラスチックをどうするのか、また、下水道と排水ます、井の頭の湧水復活と地下水のことなども、考えなくてはいけない。何を我慢して、何を得るかということも含め、哲学的なものがこのメタボリズムの中にもう少し書き加えられると、環境問題がごみだけでなく、水の学校や、緑などと結びついてくるのではないかと思う。この3つのコンセプトは、周辺整備協議会が出しているのごみが強いが、もう少しうまく入れられると良い。</p>
副委員長	<p>スタートがごみ問題でも、水や緑、水は上水・下水、洪水対策もある。水はすべてつながっており、上流で流したものが下流で洪水になるので、こうした都市洪水のメカニズムやつながりを考えると武蔵野市だけの話ではなく、そうしたことも学べると思う。これから中身の議論に入っていく時に、他の環境の要素をどう取り入れていくか。多様な環境の要素が横につながる方向も考えた方が良いと思う。</p> <p>吉祥寺は住みたいまちナンバー1と良く言われるが、最近出た「住みたくない街」という本に、武蔵野市は、ごみを出すコストがすごく高いと書いてあった。ごみ袋を有償で買わないといけなかったことを引っ越してきた人が知らない、ごみの出し方すらわからずに、引っ越してきてしまうという。であれば、自分でごみを出す量を減らせばコストも下がるので、そうしたことを知らせて、そうしたまちづくりをしていることをマイナスではなく、プラスとして伝えれば良い。</p>
委員	<p>武蔵野市の属する多摩地域は、ごみの先端的な取り組みをしており、1人1日あたりの排出量などものぎを削っている。武蔵野市は1人1日あたりの排出量はあまり良い成績ではないが、資源化率は高く、評価されている。最近では多摩地域各自治体のごみの取り組み状況を共有し、競い合うことで、ごみ減量が活性化されている。</p> <p>ゼロウェイストについては、私はまだ行ったことはないが実践しているまちが四国にあり、そこでは、すごい取り組みをしているのではなく、自分にできることを持続可能な形で、一人一人がごみと向き合う意識を持っていると聞い</p>

	<p>ている。そうした意識は武蔵野市民にもあると思うので、一人一人が向上心を持って、できる範囲でごみの減量に取り組んでもらうことが多摩地域の一員としての使命でもあるのではないかと思う。</p>
副委員長	<p>ライフスタイルは人それぞれ違い、生活時間も違うし、独身の人も家族のいる人もいる。戸建てに住む人、アパートに住んでいる人もいて、ごみを減量する際にひとつのパターンだけ示されても、自分にはできないとあきらめてしまう人もいると思う。向上心を引き出すためには、ライフスタイル別にどう工夫するのか実例を見せることができるととても参考になる。どんなライフスタイルでも、工夫の余地があると思うので、きめ細かく見せられると、他の自治体とも情報共有ができると思う。ゼロウェイストについては、農村のごみゼロ、都心のごみゼロ、住宅地のごみゼロ、また企業のあり方と関係するなど、いろいろな形があるので、武蔵野市の生活の仕方・ライフスタイルの分析をした上で、つくっていかないといけないと思った。</p>
委員	<p>とどまる完成形ではなく、その時々で考え方を変えていく、進化していくメタボリズムの思想には、非常に賛同できる。細かいことになるが、右下のメタボリズムの三つの文の最後が、「施設」で終わっていることに違和感がある。進化には、箱物というよりも運動・活動のあり方や、将来の行政のあり方など、ソフト面も含んだもっと広い意味だと思うので、工夫した方が良い。また、ごみゼロという目標は良いと思うが、大事なのは理想の実現に向けて本当に目指すことで、一步でも二歩でも常にやり続けているかどうか、重要だと思う。</p> <p>大きなテーマの中に「地域力の向上」と書かれているが、中身が今ひとつわからない。右側の説明に、市民活動という言葉が出てくるので、「地域力」とは行政の力というよりも、市民が活動する力、市民参加や市民力と近いイメージで理解して良いか。具体的な事例があれば、補足説明をいただきたい。</p>
事務局	<p>武蔵野市という全市的な単位を地域と捉えている。そこから市域を越えて、日本全国や世界に発信できるようなイメージを事務局では考えていた。地域力の中心となるのは市民活動になると思うが、隣りにあるクリーンセンターとの連携を想定しているので、官民含めてのイメージだった。</p>
委員	<p>周辺整備協議会の中でも、この歴史について記録を残す話が出ている。杉並と武蔵野は、清掃施設の建設をめぐる「ごみ戦争」の真ただ中から市民活動が始まったという歴史があり、クリーンセンターは、市民力の中で育ってきた施設。その当時からつながっている市民運動や、市民と行政が一緒にやってきた歴史を記憶に留めていく意味があると思う。武蔵野市にはこうした市民活動の土壌があると思うので、それが生かされるような環境問題の取り組み方が、地域力の向上につながっていくのではないか。</p>

委員	<p>周辺整備協議会でクリーンセンターのことを議論せざるを得なかったのは、自分たちの生活に関わることだから。事故が起きると、ルールどおりにごみが分別されていないことが原因だったりするので、広くごみのことを知っていただきたいとの思いで、ずっと活動してきた。常日頃から感じているのは、緑町三丁目や北町五丁目の方たちと環境について30年も話し合いを続けてこられたことはすごい財産だということ。一緒に勉強したり、イベントをやったりすることで、私たちが環境について学んで成長してこられたと思う。クリーンセンターの方たちも、手探りの中で、いろいろな問題が出てくると一緒に話し合いをして対処してきたという経験は素晴らしいことで、その輪を広げていきたい。運営協議会などの活動の中で、今までさまざまな施設に見学に行った。どんなに素晴らしい施設でも地域の人たちが気軽に参加できる、常に行きたくなるような施設でないと、面白くないと思う。近所の人たちが全く興味のない施設ではなく、近隣住民から広く広めていけたらという気持ちを、「地域力」という言葉に感じている。</p> <p>先ほどライフスタイルの話が出たが、地元のパークタウンの自治会事務所の当番をやっていると、団地にいる人からいろいろなごみの相談を受ける。本当に想像していなかったようなさまざまな生活があり、多様なライフスタイルを提示することなど、想像できない。いろいろな人が相談できる場所であって、市民の皆さんと一緒にどういうライフスタイルが良いのか、探っていけるようなイメージで、そこで出てきたものを皆さんと築いていけたら良いと思う。</p>
委員	<p>エコプラザで環境啓発をしていくには、ある意味普遍性がないと、皆さんに愛していただけない。ここで積んできた歴史や議論などをどうやって外に還元してくかということも大事だと思う。多摩地域の他の自治体でも、ごみの問題や処分場問題で困っている自治体がある。武蔵野市で積んできた経験値をそうした自治体に発信するからこそ、普遍的な価値ができるのではないかと思う。地域のことを大切にしながらも、せっかくだったら、それを外に発信して行って、外ともまた共有し、そこから学びたいというのが事務局の考えた地域力。</p> <p>メタボリズムについては、外形的なものの見方や活動というよりも、人のメンタル・精神的なひとつの支柱としてのメタボリズムというものを据えないといけないと思う。メタボリズムの解釈が、精神の支柱のひとつとして表現できないと、普遍性がない活動に見えてしまうと反省している。</p>
副委員長	<p>「地域」という言葉には、2つの意味がある。自分が住んでいる近傍という意味での「地域」と、市民と行政の力で一定の広域について議論する「地域」。前者のクリーンセンター周辺の地域と、普遍的な後者の意味での地域は分けて考えた方が良い。</p>
委員	<p>周辺整備協議会で左の「地域力の向上」の文章をつくった時の思いとしては、</p>

	<p>旧クリーンセンターを建てる時、周辺3団体はどちらかというに対立していたようなところがあったが、その後運営協議会ができて、活動をともし、さらに今回の新クリーンセンター建設に関しては、一緒に協力して取り組み、協力関係を築いてきた。その延長で周辺整備協議会の中で、一緒にこうしたエコプラザのたたき台をつくったという経緯がある。それを更に広げていくというのは、周辺3団体の地域だけではなく、やはりごみの減量化は地域地域で活動していくことが大事で、市域全体に地域の取り組みを広げていくイメージでいる。さらに言えば、多摩地域にも広げていくことになると思う。</p> <p>もう一点は、右の低炭素モデルの実現の説明でも「環境啓発の拠点」という言葉を使っているが、「拠点」という言葉がしっくりきていない。「拠点」というと、営業拠点とか、本部があり、それを各支店に振り分けるような、指令を出される場所のように聞こえるが、そうした場所ではないと思う。市内でも、コミュニティーセンターが16館あるが、それを統括するような拠点は無い。それは当然で、それよりも地域地域を結びつける役割が必要であり、そこにエコプラザが水平的にはまるのだと思う。そうしたことを考えると、「拠点」という言葉はふさわしくないで、外した方が良く思う。</p>
副委員長	トップダウンという構造ではなく、ハブみたいなもの。
委員	すべてを持ち合わせているから拠点と言っているのではなく、ひとつの目印であって、ここで何もかも集約し、包括しようとは皆さんも思っていないと思う。何かあった時に、環境を学ぶことができる場所としての拠点という意味で使っており、そうは思わない。
委員	出発点として、目印になる機能はあるとは思いますが、やはり目指すところは地域地域でそれぞれ個々に活動して行って、ごみ減量、低炭素化につながっていくという方向感だ。それは他の環境テーマについても同じではないか。だから、方針に「拠点」という言葉が使われていることに抵抗感がある。
委員	すべての語尾の「施設」を取ればわかりやすいのではないかな。
副委員長	施設づくりという意味での「拠点」だとお伝えすれば良いと思う。3つの地域が最初は反目していたが協力し合えたという。それがまさに地域力そのものだと思う。
委員	<p>資料1の左側の「地域を結ぶ核となる」という言葉が、右側のエコプラザのテーマ（事務局案）に入っていない。地域力の向上も、支援すると言っているが、実際にハブとなる機能が施設の中核に必要なと思う。</p> <p>全国を先導する、グッドデザイン賞受賞、誇りになるといった一番になりたい印象が強い。何度も出てくるが1回で良いと思う。また、「まちづくりとの連携」の文章が、まちづくりとの連携になっていない。いろいろな周辺施設とうまく連携していくということを書いた方が良い。</p>

	<p>他の委員が言っていたように、一般の環境にあまり関心がない人がコンセプトやテーマを見ても、自分には関係ないと思ってしまうと思う。気軽に誰でも参加できる施設だということが、しっくりこない。メタボリズムも意味がすぐにわからない。マンションに引っ越してきた何もわからないような人たちを啓発するためにも、4つのテーマをもっとわかりやすくできないか。</p>
委員	<p>これはそもそも、外に出す前提だったのか？コンセプトは、委員の中で共有できれば良いと考えていたが。</p>
副委員長	<p>もちろんそうだが、これからいろいろなことをアナウンスする上で、表に出ていくこともあると思う。</p>
委員	<p>事務局が考えたのは、周辺整備協議会で長年活動している方や、緑や水の活動をしている方など、ベースが違う方たちが集っているので、この先エコプラザを考えていく上で、いったん立ち戻る場所をつくっておく必要があるということ。皆さんが違う場所に還って議論をしてしまうと、議論が噛み合わないと思った。この会議では運営や機能、テーマなど、いろいろなことを繰り返し議論してきたが、委員の皆さんが共有項として立ち戻る場所というのが私たちが考えているコンセプト。エコプラザを運営していく時に、どういう柱を立てるのかについて、まだ議論があるかもしれないし、このコンセプトで良いことになるかもしれない。その程度のものとして提示した。</p>
副委員長	<p>関係ないという施設にならないようにという意味では、ごみを出す人、水道をひねる人は、必ずここに来てくださいという場所になれば、絶対市民全員が来る。学校や福祉施設、図書館なら来る人が限定されるが、エコプラザは市民全員が関わる施設。キャッチーの付け方など、工夫したい。あまり外に自慢しなくて良いのではないかという意見に同感で、結果的になれば良い。左の書き方のように、あまり盛らなくて良い。</p>
委員	<p>共通している意見だが、「メタボリズム」がわかりづらい。「メタボ」に対する一般的なイメージからすると、良い言葉に聞こえにくい。私たちの中でも、「メタボリズム」の意味が共通理解されていないのではと感じる。説明の中身については良いと思うが、どういう意味で使っているのかも一度確認したい。</p>
副委員長	<p>80年代くらいに高名な建築家たちが使っていた言葉で、建築の機能が、社会の変革とともに変わっていくという建築理論のひとつとして提唱されたもの。この言葉が一人歩きしないように、もう少し翻訳しなくてはいけないだろう。委員長はこだわりがあるか？</p>
委員長	<p>特にこだわりはないが、持続可能な地域社会をつくるという目標に対し、市民の皆さんがどう考え、関わっていくのかということがあると思う。</p> <p>ごみの減量だけでなく、「資源」の議論が必要だと思う。日本には資源がないので、それをどう考えたら良いか。また、ライフスタイルを考える時に、私た</p>

	<p>ちが出すごみを処理する費用は税金で賄われていることを考えないといけない。その上で、この武蔵野市での生活スタイルを選んでいる。その議論が抜けている気がする。その辺りを含めた哲学を共有しながら、また新たな価値をともにつくっていく。そうした中で、ごみ問題を資源問題まで転化できるかどうか、置き換えていけるかが問われている。ある意味、エコプラザは「場」でしかなく、非常に深い議論が求められていると思う。</p>
副委員長	<p>納税は国民の義務であるが、一方で権利でもある。それをどう考えていくかがまさに市民の意識。また、ごみと資源は、どこで線が引けるのかというのは、非常に深い議論になる。エコプラザはそうしたクリーンセンターの歴史などを考える場所というのが良いと思う。そうした意味で、あの建物を産廃にしないで残すというのは、市民の記憶を残すという意味の記憶遺産にもなると思う。ひとつの場をつくるという意味で、非常に象徴的。</p>
委員	<p>今回提案のあったコンセプトは、今後の議論のために、原点に立ち帰るためという話があったが、メタボリズムを除いた残り3つには優先順位のようなものはあるか。例えば、低炭素モデルの実現と、地域力の向上が少し相反するような施策をとる場合、どちらを優先させるか判断することはあるか。</p>
委員	<p>それは難しい。</p>
委員長	<p>そうした問題の設定の仕方はしない方が良い。環境問題については時間がない。優先順位の問題ではなく、トレードオフの関係がある。どちらが良い悪いという議論ではなく、価値観をぶつけ合っていくのが、ある意味では市民力だと思う。</p>
委員	<p>通常、コンセプトはだいたい1つで、これらを包含した上位概念としてのコンセプトがあって、それからたどっていけば解決できるようなものが一般的ではないかと思う。この4つをさらに包含したひとつのコンセプトがあれば良い。</p>
委員長	<p>さっきのメタボリズムを含め、もう少しわかりやすく言い直ししていくなど、そうした意見で良いか。</p>
副委員長	<p>これを超える表現・全部をまとめる概念というのは、なかなか難しいと思う。疑問は確かにあるが、代替案を提案するしかない。</p>
委員	<p>かんぽの視察のまとめなどで、理念や基本的な考えを見ていたら、やはり、皆さん長々と書かれていて、そうしたものなのかとは思っていた。</p>
委員	<p>たくさんの方が議論を語ってきたので、ひとつにまとめるのは難しいことだと思う。まずは、わかりやすい文章になっていれば、3つでも4つでも良いと思う。</p>
委員	<p>自分たちの活動に当てはめてどういう重みを持つのかということだと思う。10個の文を、字句の問題は別として、大枠の内容を実践しているものと、近未来的にこうなってほしいと思っているもの、将来的にこうなってほしいものに</p>

	分け、丸をつけてみたら、6つ丸がついた。自分たちの足元の活動の中で、当てはめてみると、評価しやすいと思う。
副委員長	今までの議論で、右の4つの枠そのものについて異論はなさそうだ。上の3つはわかりやすいが、「メタボリズム」という見出しがわかりやすいか、という疑問が出た。また、中身がその見出しを端的に表しているものと、誇張しているものがあるのをより分けて、もっと簡素にしても良いと思う。
委員	資料1右側の「まちづくりとの連携」のところの最初の行に、「中間処理施設としての機能と外観」とあるが、エコプラザを中間処理施設と考えているのか。
委員	周辺整備協議会からのキャリーオーバーだと思っているので、クリーンセンターを含めたこのエリアのまちづくりを発信していくという意味で使った。エコプラザではなく、このエリアで行われてきたまちづくりをどう普遍化していくのかという意味。
委員	では、この「中間処理施設」とはクリーンセンターのことか。
委員	そのとおり。
委員	<p>先ほどのごみゼロ議論から、最終的にごみはゼロ、資源化していくことを目指しているので、クリーンセンターは最終処分場ではなく、中間処理という意味で使われているのかと思った。</p> <p>また、全国を先導という上から目線になるが、日本一や上を目指すという長期目標は、あった方が良いと思う。小平市が、地域エネルギービジョンを経産省の事業でつくった時に、太陽光発電日本一を目指す10年以上前に書いていた。市民参加であったり、行政も良い意味で意識をするようになるので、目指す方向を具体的に書いておいても良いと考えている。</p> <p>コンセプトについては、外に示す場合は、1～2行くらいで説明できたものが1つあって、その重点的なテーマとか切り口として、この3、4つがあるという説明の方がわかりやすいと思う。例えば、考えられる言葉としては、「持続可能性」。これを別のわかりやすい表現にすると、「子どもの未来に責任を持てるような環境づくりをする。」などがある。こうした言葉があった方が、全体の目指していくところを表現できるので、外の人にはわかりやすいと思う。</p>
副委員長	持続可能性という言葉も出た当初はわかりにくかったが、今はだいぶ親しまれてきた。そこに柔軟性や対応性という言葉を入れると、もっとわかりやすくなる。
委員	4つのコンセプトを全体として、ひと言で言えるような表現があった方がわかりやすいと思う。税金をつぎ込んで整備して運営していく以上、公共目標を達成しているかどうか、何らかの形で評価できる方が良いと思っている。そうした意味では、抽象的な漠然としたスローガンだけではなく、より具体的な目標の方がわかりやすいように思う。

副委員長	他の施策と比べ、税金を払って行政に一任して運用してもらうものではなく、市民生活もからめて達成しないとできないので、行政だけの課題にしない方が良い。
委員	おっしゃるとおりで、市民参加や地域力を相当引き出さないと、全国トップの成果は出せない。
委員	全国トップがわかりやすいとは思わない。何をもちってトップなのか、それが何を伝えたいのか、良くわからない。
委員	ごみの話が出ているように、一人あたりのごみの排出量が多摩では一番少ないとか、人口が多い都市の中では一番少ないとか、温暖化対策もするのであれば、市民一人あたりが排出する二酸化炭素量が少ないといったような結果で示される。
委員	スローガンとしてはわかるが、人口 14 万人のまちが、全世界の環境にどれだけ影響を与えるのか考えると、あまり関係ないと思うかもしれない。それでも環境問題に取り組む意味があることを感じないといけな。武蔵野市が今何を達成したかという、住宅地にクリーンセンターをもめることなく稼働させた。みんながごみの焼却場だと思わず、当たり前のようにある。最先端の技術でつくられていると思うが、だからといって、みんなが真似できるものではない。環境問題の先にある、今やっていることとの関係性を、わかりやすいスローガンや目標のようなもので一番とかではなく表せると良いと思う。
委員	トップとか全国一と書かれているものについて、書かない方が良いというご意見があったので、それは全部消す必要がないのではないかとすることを伝えたかった。活動によっては、目標を数値化できないものがあると思うが、具体的な指標が出せるものもあるので、判別すれば良いのではないかと思う。
委員	数値目標を示すやり方はある。周辺整備協議会でも、3つの柱ごとに具体的な指標を設けた。クリーンセンターをもう一度建て替えるかもしれない 30 年後に市民が一連のこの事業を評価する際の指標として、炭素排出量をこれくらい下げるとか、地域力がどのように向上しているのか具体例を掲げた。そうした方法はあると思う。
委員	具体的な目標を書くのは、コンセプトのところでも良いかもしれない。
委員	事務局が書いた文章が、過大な目標に見えてしまったのかもしれないが、リミットを自分たちでかけないで、できることをやっていくということを伝えたかった。ひとつの事業にも、多面的な評価の仕方があり、エコプラザが評価されたい、賞がほしいということではない。環境問題や地域づくりもいろいろな状況で変わってくるので、メタボリズムの考え方につながるかも知れないが、自分たちが積み重ねてきた歴史に対し、リスペクトをしながら、次々にみんなハードルを越えていくというイメージで書いた。クリーンセンターで言うと、

	グッドデザイン賞をみなさんで作り上げた結果で得たということ、今後、もっと乗り越えていくというイメージ。それを目標化しようというつもりで書いた訳ではないことはご理解いただきたい。
副委員長	市民参加で作りあげるところが大事ということ。
委員	次の世代をつくっていくための通過点はたくさんあったし、これからも内に閉じこもるのではなく、開かれた場で考え、作り上げていくのではないかと考えている。
委員	説明の中で、武蔵野市の枠を越えて全国・世界を、という話があったので、数値目標と理解してしまった。
委員	書き方と説明に問題があった。
副委員長	他の市と数値目標を比べることはできるが、実はすごく相対的だということの方が良くわかる。例えば低炭素問題で、石炭火力発電所を持っているような自治体では、武蔵野市の二酸化炭素の年間排出量を1日ですべて出しており、そうした発電所の電気を使っている。環境問題は、電気や物流など他の自治体との影響で決まってくるので、武蔵野市の数値だけを見ても、良い評価ができるとは限らない。武蔵野市としては、都市のあり方の中でのごみの出し方や、水・エネルギーの使い方、資源の再利用の仕方などが、1位でなくてもユニークであれば良いのではないかとと思う。
委員	<p>クリーンセンターが見えるところで議論していると、熱い気持ちになって、ごみの減量を強く感じるが、クリーンセンターから離れた地域では、そうした空気が少し希薄を感じる。クリーンセンターを抱え、ごみを受け入れてくださっている方たちの思いと、ごみを出す側の方たちの思いは、相違がある。エコプラザができるので、クリーンセンターに遠い地域の方も同じ土俵に乗ってもらうよう環境への関心の距離感を縮めたい。かつて落葉や緑被率低下の課題があり、課題解決には発信がカギだと思って「みちまちみどり」を発刊した。新しいクリーンセンターができて、チラシを離れた地域の方は「こういうのができたのね」くらいの反応で、温度差を感じている。近隣地域だけでなくエコプラザまで引っ張り込む力の必要性をコンセプトに書き込んでほしい。</p> <p>また、資料1の左の「まちづくりとの連携」には緑のことが記載されているが、右にはない。「みどり」にはこだわり続けてほしい。</p>
委員	委員がお住まいの地域の方が、クリーンセンターに見学に来て、一番興味を持って帰られたのは、ごみ発電を防災に使えるということだった。
委員	実際に見たり、聞いたりするとすごく感動する。新しいクリーンセンターは、見えるようになったので、少人数でも良いから、見学に行ったらいかがですかと言うと、「え、行けるんですか」とすごくワクワクしてくれる。こうした切り口で市民に呼びかけ、他の地域を巻き込めるのではないかと。

副委員長	<p>エコプラザは、クリーンセンターと旧クリーンセンターの両方に関わっている施設だということを再認識しないといけない。今稼働しているクリーンセンターと旧クリーンセンターがエコプラザに変わってしまう訳ではなく、エコプラザがその両方をつないでいるという、そうした考え方。運営や実施するイベントなどにも関わる、次の議論にもつながる点だと思う。</p>
委員長	<p>今までの会議で出されたコンセプトをもう少しわかりやすくということで、事務局から資料1を提示していただいたが、この議論は最終的に議会で予算化してもらわなければいけない。どのようにエコプラザをつくっていくか、皆さんの議論をまとめて議会に諮り、議員の方に理解してもらえなければ、配分は決めていただけない。</p> <p>コンセプトをわかりやすくという皆さんの議論を聞いて、「共創による未来に誇れる場づくりとしてのエコプラザ」というのを概念、コンセプトの大きくくりとして良いのではないかと思う。説明文ではなく、キャッチコピーで良い。私たちが未来に誇れる場づくりということを頭の隅に置いて、今日出されたいろいろな意見をもう少し精査していけば良いと思う。</p>
副委員長	<p>これまで出てきた意見を事務局で集約して、委員長、副委員長も協力しながら一度まとめていくので良いか。</p>
委員	<p>4つの中のメタボリズムは、表現を変えるにしても、「あり方」だと思う。これまで視察してきた他の環境学習施設は、学習機能がある、講座をやる、あるいはリサイクル品を売るなど、ある程度機能が決まっていた。こうした機能があり方として、増殖していくかもしれない、そこまで包含しているという施設はあまりない。メタボリズムが「あり方」としてうまく表現できれば、この特性を生かし、エコプラザを過去の遺産を使ってやっていく意味が出てくると思う。こうしたことが上手く説明できると良い。</p>
副委員長	<p>最後に重い課題が出た。要はキャッチーであるかどうか、本質をついているかどうか。これをもう少しうまく、委員長と事務局と合わせて練ってみたいと思う。</p>
委員	<p>繰り返しになるが、今日はこの資料をエコプラザの柱として決めるという観点で出した訳ではなく、今後、議論していく中で、今日の議論がベースとなり、各委員が同じ地点に戻れるように示した。次の議論をしながら、やっぱり最終的に抽出されるテーマがあるかもしれないというつもりでいる。今日の議論で資料をブラッシュアップしても、またこの議論で止まってしまうと思うので、次の議論をしながら、また別の機会に出させていただけたいと思う。</p>
副委員長	<p>では、今日の議論を忘れないで、スパイラル的にさらに上を目指していきたい。</p> <p>これだけの概念が出てきたので、エコプラザという名称についても、もう少</p>

	しユニークさを求めても良いと思う。
事務局	市民公募することも検討していただけたらと思う。
副委員長	公募するにしても、こうした特徴があるということを前提とする必要がある。それがまさにこの中身なのだと思う。すごく新しい、ここにはない言葉が出てくるかもしれない。その辺りを期待して、それを引き出せるようなタイトルにできたら良いと思う。
委員長	子どもの方がアイデアを持っている。
副委員長	夢があるし、既成概念もない。
委員	永久にこの「仮称」を残し、完成せず、成長するのも良いかもしれない。
副委員長	なるほど。議会が通るかわからないが、新しいかもしれない。

2 「学校の花壇から地域の環境を考える！」について（委員報告）

発言者	要旨
委員	<p>中学生に園芸を教えてほしいとの依頼があり、2006年から花壇づくりを指導している。雨水タンクを2014年に導入し、花壇が発展していくにつれて、子どもたちの学びが広がり、文化祭でその成果発表を行った。花壇は校門前の1坪ほどの大きさで、園芸の指導が目的だったが、花壇を通して地域の環境を含めて教えていこうと思い、少しずつ体系立てて学ぶことを進めた。</p> <p>雨水タンクを設置したことで、雨水のことや地域の水の循環、下水のことなどのほか、地球規模の話までに発展した。また花壇にチョウが来ているとのことから、生態系、温暖化などの話をして調べさせ、花壇に掲示した。限られた予算の中でどんな工夫をすれば良いかを考えてほしいと、種からの育苗、挿し木、挿し葉、株分けをして草花を殖やすことを学ばせた。植物を最後まで使い切ることを覚えてほしいと商店の開店の花をいただき、花壇の花とともにドライフラワーにし、新入生へのウェルカムカードを作った。3年生は自主的にこんなことがしたい…と言ってきてくれるようになった。また図書室の方も協力的で生徒の興味がある生物、環境関係のものを揃えてくださっている。花壇の手入れをしていると、道ゆく人がよく声をかけてくださり、地域の方と良い関係もできた。</p> <p>今年は文化祭のテーマを早めに決め、夏休みに調べてまとめを発表した。水の循環、チョウの分布、生物多様性の本の感想、生徒皆が参加できる環境カルタづくり、生物関係のクイズのスタンプラリーも生徒が自発的に考えた。また市役所にも呼びかけ、雨水タンクや生物多様性、食品ロス等についての展示もした。子どもたちの展示と市役所の展示が一緒に見られる機会になって喜ばれた気がする。</p> <p>アンケートでも、保護者から、中学生になり受験で忙しくなっているが、そ</p>

	んな中でも植物のことを生き活きと学んでいるのが嬉しいという感想をいただいた。
副委員長	委員がエコプラザでこういった取り組みをしている姿が想像できる。
委員長	こうした探究活動をしている生徒の方が、学力が向上するという調査結果もあるので、保護者の方からも支持される取り組みになると思う。

3 旧クリーンセンター事務所棟・プラットホーム再利用範囲について

発言者	要旨
事務局	資料2について、旧事務所棟とプラットホームの再利用にあたり、再利用範囲の検討結果がまとまったので報告する。3階使用案では、通常の耐震基準(1.0)は確保できるが、市の耐震基準Ⅱ類(1.25)は確保できず、耐震補強が必要になる。その場合、1階エントランスホールに2か所の耐震壁を入れる必要があり、エントランスホールの開放感がなくなる。スペースは個割になり、1階の機能が制限される。一方、2階使用案は、3階部分を減築することで荷重が軽減され、耐震基準Ⅱ類(1.25)を満たすため、耐震補強の必要がない。エントランスホールに耐震壁を入れる必要がないので、3階部分を減築しても、この部分を生かすことができ、1、2階だけで機能を果たせる。改修コストは、3階使用案・2階使用案とも、イニシャルに差はないが、床面積を減らすことで、ランニングコストを削減できることも、減築案を選ぶ目安になった。エントランスホールからプラットホーム、プラットホームから芝生広場への動線は確保される予定。
委員	<p>周辺整備協議会で聞いた方が良いのかもしれないが、地下ピットは壊して埋めると聞いているが、どのような埋め方をするのか、わかったら教えてほしい。</p> <p>周辺整備協議会では、地下ピットを埋めるときに地下貯留タンクを入れて、そこに水をためて使うとか、あるいは自然塾でやっているような空気管を入れることもできるのではないかと話している。発想としては、周辺整備協議会のごみの話からではなく、水の学校などからご意見をいただくと、追い風になるのかなという感じがしている。環境全般を扱うなら、埋める前にそのタイミングでできないか。雨水貯留タンクを入れるという話は聞いているか。また、それをマンホールから取り出して循環水に使うなど、今後そうしたことができるかどうか、何か情報はあれば教えてほしい。</p>
委員	公共施設をつくる場合、雨水貯留を義務づけているので、雨水貯留施設を埋めることになる。ピットについては、ピット自体の壁が厚く、地盤を受ける力を持っているので、全部壊してしまうと大変なことになる。ただ、水抜きをつくらないと、雨がたまってしまうので、水抜きをつくりながら、ピットの壁の一部を残していくというところまでは聞いている。次のステップとしては、ク

	リーンセンターで研究していると思うが、情報は持っていない。
副委員長	どこの部分のことか。
委員	裏面の工場棟減築と書いてある点線の下で、ごみが入っていたところ。空間としては、スラブを打つのが大変だからと聞いているが、せっかく空間があるので、同時に管を埋めるなり、プラスチックの貯留槽を埋めるなり、そうしたことができるのではないかと考えた。環境全般の中で、何かアイデアがあれば、言っておいた方が良くと思った。
委員	学校の校庭と同じものか。
委員	学校と同じ。通常の学校だと、500 から 600 トンくらいの貯留槽が埋まっている。面積、流域で計算が出てくるが、それは今担当が計算している。
委員長	一階に開放的なスペースができるので、場づくりとしては、いろいろな催し物も対応できるのでないか。
副委員長	コスト的にはあまり変わらない。また、3階でないとできないということが特にないのであれば、減築で良いのではないか。屋上防水をすることになるが、屋上の利用によって仕様が変わってくるのではないか。
委員	荷重の問題で、屋上を利用して何かをするのは難しい。
副委員長	プラットホームの大容積自体が貴重な資源だと思う。

4 今後の会議の進め方

発言者	要旨
事務局	資料3の今後のスケジュールについて、今回は、資料1の前文にあるような武蔵野らしさと言ったところについて皆様で議論し、次々回以降、機能や利用範囲の決まった空間活用について考えていきたい。当初、任期は来年の3月31日とお願いしていたが、丁寧な議論を行いたいということで、任期を半年延長したい。
委員	来年に入って、機能・空間活用の話をしていくなら、一度ワークショップのような形で模型をつくって動かしたりしながら話ができると、より話が膨らむのではないか。少し先だが、準備が必要だと思うので提案した。
委員	施設整備に関する議論はいつ頃するのか。またいつ頃すれば設計や予算に間に合うのか。先ほど建築関係は決まったということで報告があったが、屋上に太陽光発電を乗せるなどの設備的な議論は、まだ間に合うのかなど、どんなスケジュールなのか知りたい。
委員	耐震基準の問題や既存施設を使うという制約もある。例えば、何かを加えるために耐震補強するということになれば、コスト的にも工期的にも変わってくる。2階使用案（3階減築）で考えていただきたい。また、市役所の事務の都

	<p>合上、8月に翌年度の事業費を明らかにするため、それに合わせて3月末までの会議となっていた。もっと深い議論をするには、予算の締め切りに合わせるのではなく、議論に合わせていかなければならないと考え、今日新たなスケジュールを出した。これでいくと31年度の予算を取るの厳しい。おそらく32年度の工事になるのではないかとというのが私たちの考え。</p>
副委員長	<p>この市民会議で計画・設計するのではなく、ここでは具体的な注文を付けるということだと思う。この市民会議のミッションは、この施設がどうあるべきなのかという要求定義をつくること。それに沿って、いろいろと検討をしていく。それに対するコミットの仕方はさらにあるかもしれない。</p>
委員	<p>コストで一番かかるのは設備だが、設備がどこまで必要なのかということは考えないといけないと思う。下水道は要るけど、空調は要らないなど、どこで反映できるのか。先ほどの太陽光パネルも同じ。設備が大きな割合を占めているので、その辺の発想の原点の話ができるのかどうか。例えば、大野田小学校では冷房ではなく、別の涼み方があったりする。プラットホームも空調は要らないという話なのか、その辺はどこかで節目をつくってほしい。</p>
委員	<p>今、計上している費用は、現状機能の回復の費用になる。プラットホームの冷暖房はこれでは賄えない。あくまでも30年経った施設の電気のライン、上下水やエレベーター、照明など、現状機能を更新する費用になる。付け足すのであれば、それはオプションとしてお金がかかる。</p>
委員	<p>床面積が変わるから、安くなるという話か。</p>
委員	<p>これから機能や活用について議論することは、十分この建物の検討に調整なり、反映できる余地はある。そうでないと、ここで議論をする意味がない。例えばだが、プラットホームを考えると、夏はエアコンが必要だとなった場合、全部は無理だが、仕切ってという話だと、オンオフをつけないといけない話になる。</p>